

# 業界の

# 声



● 山梨県砂利協同組合

理事 飯田 敏夫氏

## 砂利業界の歴史について

昭和26年頃、洗浄設備を付けた可搬式砂利採取機が開発されたことにより、砂利採取は全国的に広がり、昭和20年代後半には、山梨県でも富士川本流及び支流で砂利採取が開始されました。しかし、現在では、全国いたるところの河川で、天然砂利資源が枯渇。良質な河川砂利を採取しているのは、山梨県以外には数県しかない状況となっています。

## 業界の現況は？

現在の砂利業界は、建設業界の不況の煽りを受け、非常に厳しい状況となっています。組合員も39社いますが、砂利採取のみで操業している企業は20社程度です。他の企業は仕事量の減少により、生コン業や建設業との兼業や骨材販売を専門に行っています。

業界の景況悪化の原因としては、「仕事量の大幅な減少」と公共工事の際に試算される「積算価格の低下」です。「仕事量」に関しては、公共工事をはじめ民間工事までも減少しており、砂利業界の企業全てに行き渡るだけの仕事がありません。「積算価格」に関しては、とても収益を出すことができない価格まで下がり、仕事を受注しても利益が出ない状態が続いています。

## 今後の業界は？

今後、最も期待していることは、「リニア実験線延長工事」及び「中部横断道自動車工事」です。リニアに關しましては、各工区が一齐に発注されていますが、砂利・砂の納入までは工事が進んでいません。また中部横断道に關しましては、分割発注が多く、その恩恵を与えるのは一部の企業のみという見方もあり、早期の一括発注を待ち望んでいます。私もは、これらが「業界を再生させる最後の機会」と捉えています。

また、これらの工事で発生する建設残土は、砂利採取後に処分することにより有効利用できる土地が県内にあるので、今後は行政側の関与もお願いしていきたいと考えています。

現在は「積算価格」も適正なものに戻りつつあり、業界は多少ですが改善傾向にあるため、今後も骨材共同販売制度を強化することによって骨材価格を適正化させ、少しでも業界を活性化できるよう活動していきたいと思えます。